

さといも

「さといも」は「さといも」、「いも類」、「野菜類」に適用のある農薬を使用すること。

「ずいき」は「さといも(葉柄)」か「ずいき類」、「茎野菜類」、「野菜類」に適用のある農薬を使用すること。

—— 発病・加害時期
 === 発病・加害最盛期

作型・病虫害名	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
早熟 (石川早生)	種い	も伏	せ込み	定植									
普通 (唐芋)			○	○	○								
普通 (えぐ)				○	○								
疫													
黒													
軟													
ア													
ブ													
ラ													
ム													
シ													
ハ													
ス													
モ													
ン													
ヨ													
ト													
ハ													
ダ													
ニ													
類													

疫病

留意事項

- 1 高温多雨時に多発し、台風後などに一気に広がる。
- 2 薬剤散布時は必ず展着剤を加用し、株元にしっかり掛かるように散布する。
- 3 さといもは展着剤で薬害を起こしやすいのでアプローチBI、スカッシュ等のさといもに薬害が少ない薬剤を使用する。
- 4 ジマンダイセン水和剤、ペンコゼブ水和剤の成分（マンゼブ）の総使用回数は、2回以内。
- 5 ジマンダイセン水和剤、ペンコゼブ水和剤はかぶれに注意する。
- 6 QoI剤<<1 1>>は耐性菌が出現しやすいので、1作1回程度の使用に努める。

防除方法

- 1 種いもは、無病地から採取する。
- 2 排水を良好にする。
- 3 連作を避ける。
- 4 被害株は早期に除去し、ほ場外に持ち出し処分する。
- 5 無マルチ栽培の場合、土寄せの際なるべく葉柄に傷を付けないようにする。
- 6 発生が見込まれる時期に、下記の薬剤を予防的に散布する。
 - ・ [ジマンダイセン水和剤](#) <M3> 【500倍 7日/2回】
 - ・ [ペンコゼブ水和剤](#) <M3> 【500倍 7日/2回】
 - ・ [ジーファイン水和剤](#) <NC> <M1> 【1000倍 前日/ー】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

- ・ [ランマンフロアブル](#) < 2 1 > 【2000倍 前日／2回】
- 7 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
- ・ [アミスター20フロアブル](#) << 1 1 >> 【2000倍 14日／3回】

黒斑病

防除方法

- 1 種いもは、無病地から採取する。
- 2 植付け時に無病いもを用いる。
- 3 種いもを下記のいずれかの薬剤で処理して、そのまま（ぬれたまま）植付ける。
- ・ [ベンレート水和剤20](#) < M 3 > < 1 >
【20倍 1分間種いも浸漬 植付前／1回】または
【種いも重量の0.4～0.5% 種いも粉衣 植付前／1回】

軟腐病

留意事項

- 1 収穫直前に雨が続くと被害が多い。
- 2 病原細菌は土中及び被害部について越冬する。

防除方法

- 1 排水を良好にする。
- 2 連作を避ける。
- 3 被害株は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。
- 4 無マルチ栽培の場合、土寄せの際なるべく葉柄に傷を付けないようにする。

アブラムシ類

留意事項

- 1 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

防除方法

- 1 植付時に下記の薬剤を施用する。
- ・ [アドマイヤー1粒剤](#) < 4 A > 【4kg／10a 植溝土壌混和 植付時／1回】
- 2 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
- ・ [アディオン乳剤](#) < 3 A > 【2000～3000倍 7日／5回】
- ・ [ウララDF](#) < 2 9 > 【2000倍 7日／2回】
- ・ [エルサン乳剤](#) 劇 < 1 B > 【1000～2000倍 7日／1回】
- ・ [アドマイヤー顆粒水和剤](#) 劇 < 4 A > 【10000倍 14日／2回】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

ハスモンヨトウ

留意事項

- 1 年5～6回の発生で8～10月頃の被害が最も大きい。
- 2 老齢幼虫の防除は困難なので、若齢期防除に重点を置く。特に、発生の激しい地帯では一斉防除が効果的である。
- 3 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

防除方法

- 1 下記の薬剤を、若齢幼虫を対象に散布する。
 - ・ [トレボン乳剤](#) <3 A> 【1000倍 14日／3回】
 - ・ [ヨーバルフロアブル](#) <2 8> 【5000倍 前日／2回】
 - ・ [プレオフロアブル](#) <UN> 【1000～2000倍 7日／2回】
 - ・ [アニキ乳剤](#) <6> 【2000倍 前日／3回】
 - ・ [コテツフロアブル](#) 劇 <1 3> 【2000倍 7日／2回】

ハダニ類

留意事項

- 1 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

防除方法

- 1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [コロマイト乳剤](#) <6> 【1000倍 前日／2回】
 - ・ [マイトコーネフロアブル](#) <2 0 D> 【1000倍 3日／1回】
 - ・ [コテツフロアブル](#) 劇 <1 3> 【カンザワハダニ 2000倍 7日／2回】
 - ・ [サンマイトフロアブル](#) 劇 <2 1 A> 【1000～1500倍 21日／2回】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。